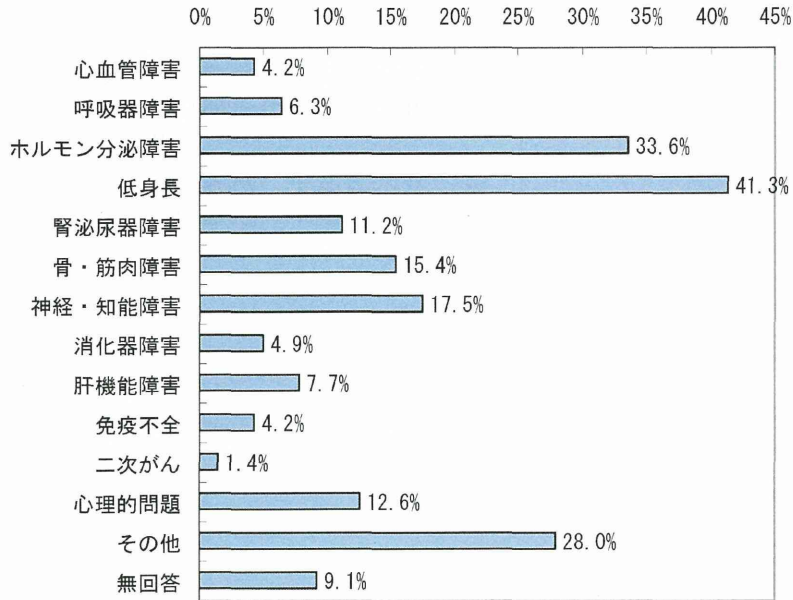


E 現在の患児について

問99. 問98で「ある」とお答えになった方にお伺いします。晩期合併症と思われるもの全てに○をつけてください。(MA)

n=143



- ① 心血管障害
- ② 呼吸器障害
- ③ ホルモン分泌障害
- ④ 低身長
- ⑤ 腎泌尿器障害
- ⑥ 骨・筋肉障害
- ⑦ 神経・知能障害
- ⑧ 消化器障害
- ⑨ 肝機能障害
- ⑩ 免疫不全
- ⑪ 二次がん
- ⑫ 心理的問題
- ⑬ その他 ()

問100. 晩期合併症に関する医療費はおおよそ1ヶ月にしてどのくらいの出費になりましたか。また、それは負担になりましたか。

1) 金額； あてはまるものひとつに○をつけてください。(SA)

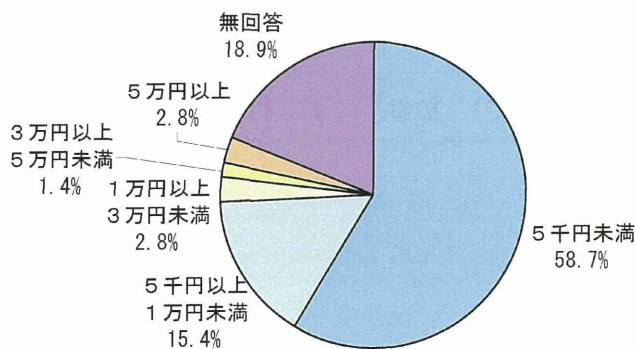
- ① 5千円未満
- ② 5千円以上1万円未満
- ③ 1万円以上3万円未満
- ④ 3万円以上5万円未満
- ⑤ 5万円以上

2) 負担； あてはまるものひとつに○をつけてください。(SA)

- ① 負担が大きかった
- ② それほど負担にならなかった
- ③ その他 ()

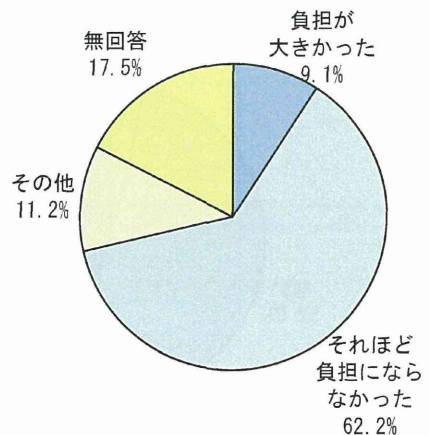
1) 金額

n=143



2) 負担

n=143



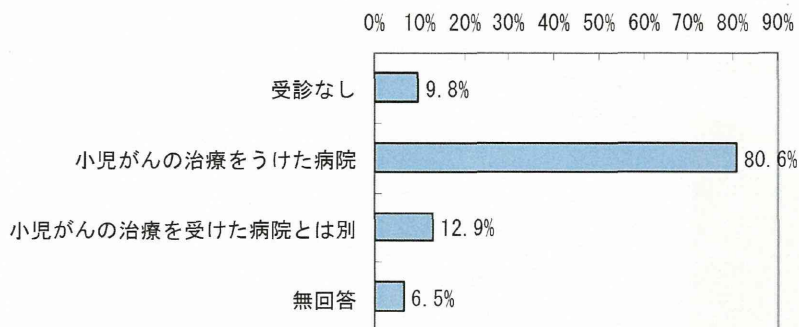
E 現在の患児について

問102. 晩期合併症の有無に関わらず全ての方にお伺いします。罹患された小児がんの経過観察だけではなく、小児がんの治療後に起こりうる可能性のある影響についての経過観察のために、お子さんが受診した医療機関はどれですか。1)～3)の各項目について、あてはまるもの全てに○をつけてください。(MA)

1) 経過観察のために受診した医療機関 (受診有無)

n=325

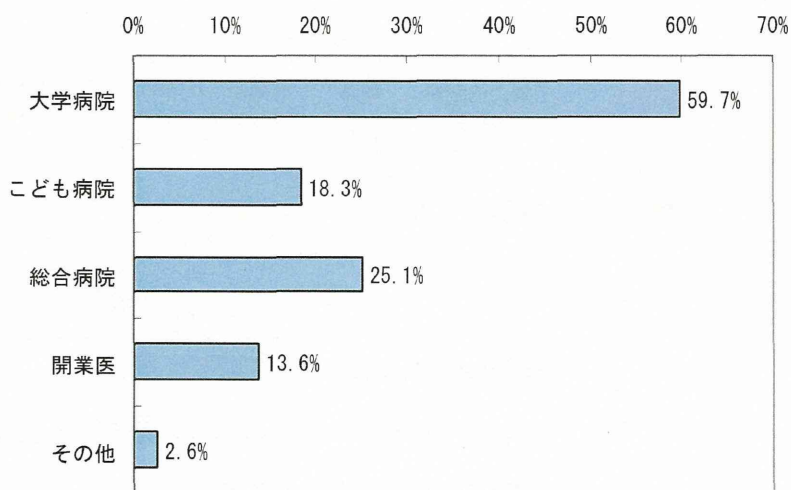
- ① 受診なし
- ② 小児がんの治療を受けた病院
- ③ 小児がんの治療を受けた病院とは別の病院



2) 経過観察のために受診した医療機関

n=191

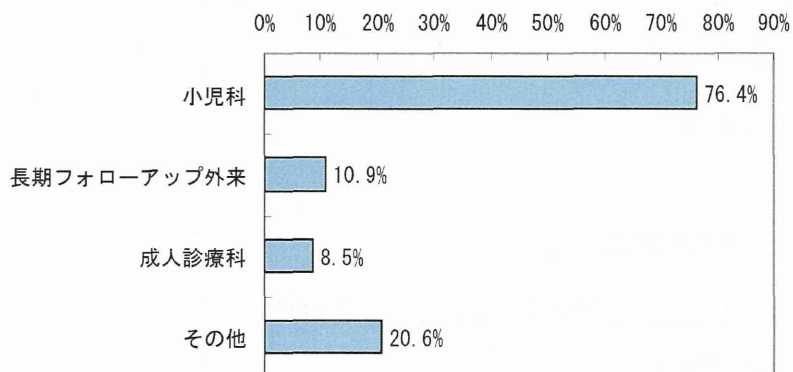
- ① 大学病院
- ② こども病院
- ③ 総合病院
- ④ 開業医
- ⑤ その他 ()



3) 経過観察のために受診した診療科

n=165

- ① 小児科
- ② 長期フォローアップ外来
- ③ 成人診療科
- ④ その他 ()

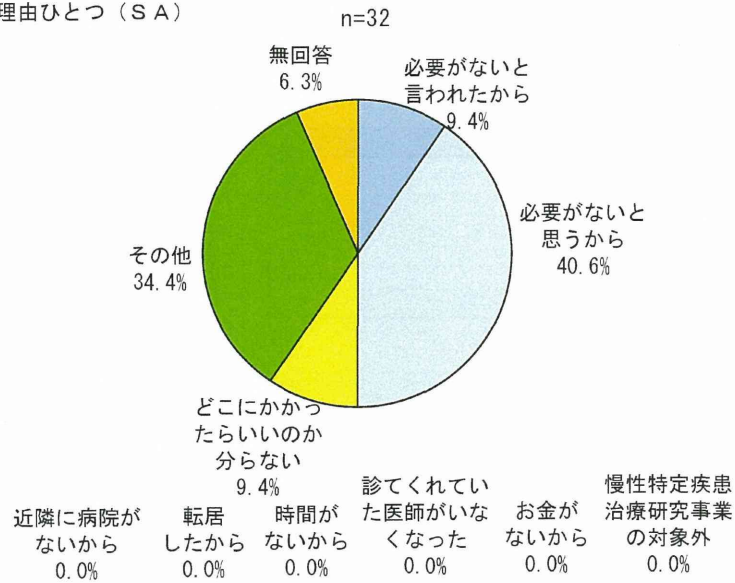


E 現在の患児について

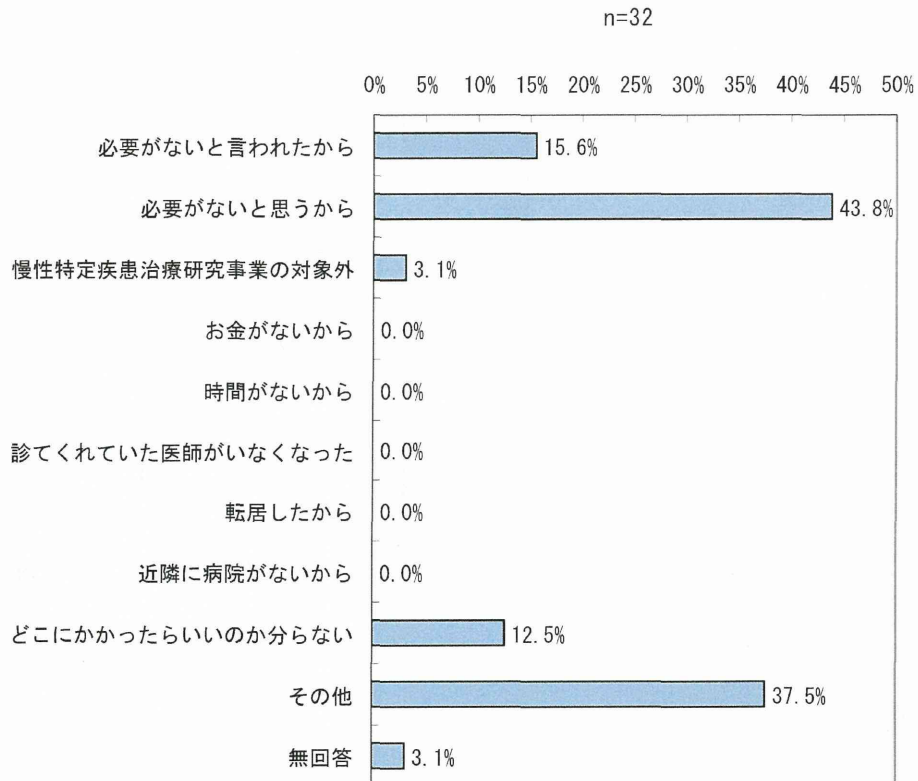
問103. 問 102-1) で受診なしと回答された方にお伺いします。その理由について、最もあてはまるものひとつに◎を、その他、あてはまるもの全てに○をつけてください。(MA)

- ① 必要がないと言われたから ②必要がないと思うから
 ③ 小児慢性特定疾患治療研究事業の対象外となったから ④ お金がないから
 ⑤ 時間がないから ⑥ これまで診てくれていた医師がいなくなったから ⑦ 転居したから
 ⑧ 近隣に病院がないから ⑨ どこにかかったらいいのかわからないから ⑩ その他 ()

◎ 受診しなかった理由ひとつ (SA)



◎+○ 受診しなかった理由全て (MA)

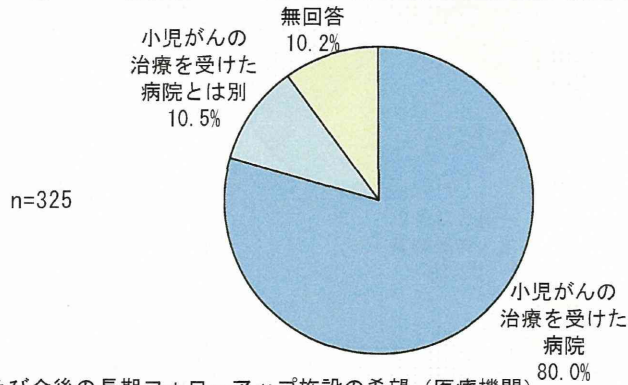


E 現在の患児について

問104. 現在及び今後の長期フォローアップ施設のご希望をお聞かせください。小児慢性特定疾患治療研究事業の対象外の年齢である20歳を超えてからの小児がんの治療後に起こりうる可能性のある影響について、健康管理のために受診する病院（長期フォローアップを受ける病院）で希望するもの、また負担できる年間の医療費は次のどれですか。各項目について、あてはまるものひとつに○をつけてください。（SA）

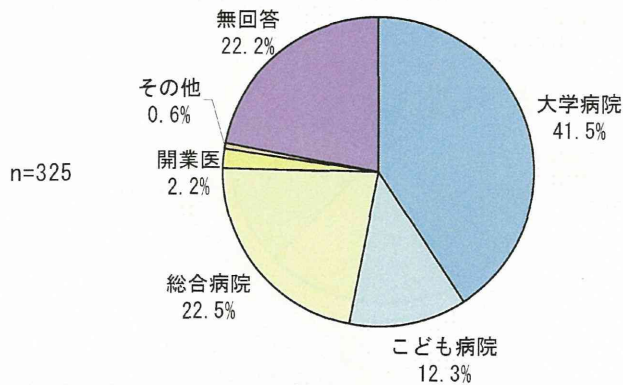
1) 現在及び今後の長期フォローアップ施設の希望（受ける病院）

- ① 小児がんの治療を受けた病院 ② 小児がんの治療を受けた病院とは別の病院



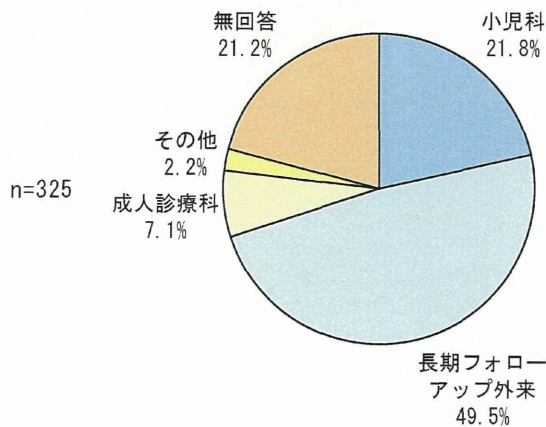
2) 現在及び今後の長期フォローアップ施設の希望（医療機関）

- ① 大学病院 ② こども病院 ③ 総合病院 ④ 開業医 ⑤ その他（ ）



3) 現在及び今後の長期フォローアップ施設の希望（診療科）

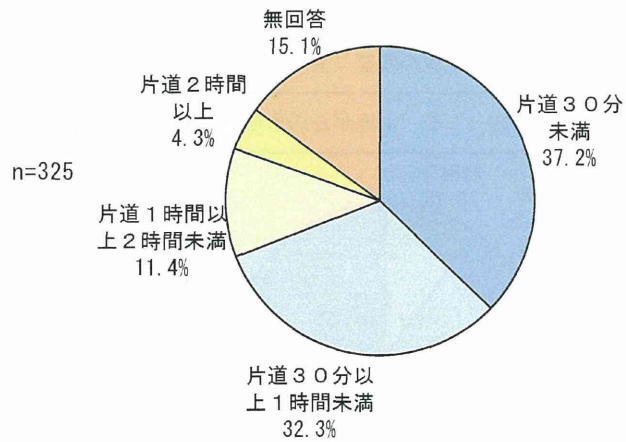
- ① 小児科 ② 長期フォローアップ外来 ③ 成人診療科 ④ その他（ ）



E 現在の患児について

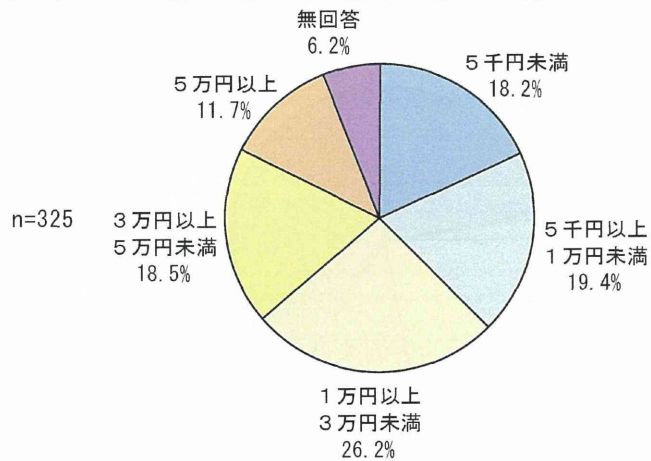
4) 現在及び今後の長期フォローアップ施設の希望(病院までの時間)

- ① 病院まで片道 30 分未満 ② 病院まで片道 30 分以上 1 時間未満
 ③ 病院まで片道 1 時間以上 2 時間未満 ④ 病院まで片道 2 時間以上



5) 負担できる年間の医療費

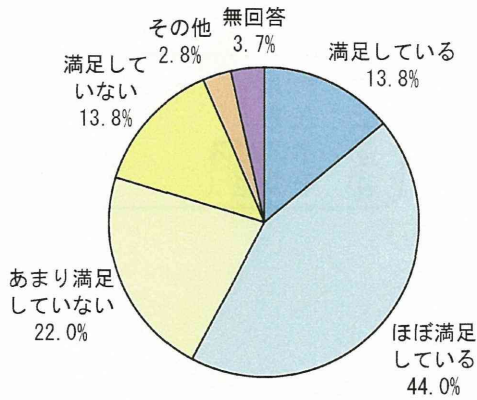
- ① 5 千円未満 ② 5 千円以上 1 万円未満 ③ 1 万円以上 3 万円未満
 ④ 3 万円以上 5 万円未満 ⑤ 5 万円以上



F 末期時から死亡後までの経過

F 末期時から死亡後までの経過についてお伺いします。

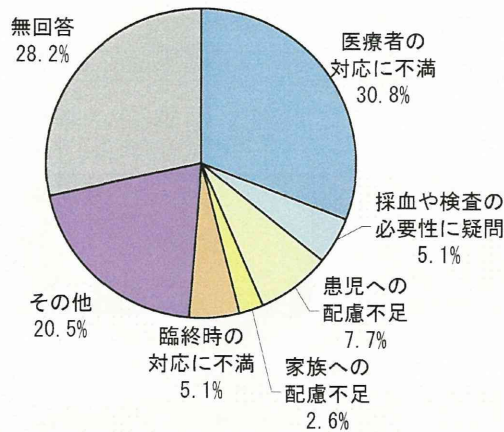
問113. 末期時の医療に満足しましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。(SA)
n=109



- ① 満足している
- ② ほぼ満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ 満足していない
- ⑤ その他 ()

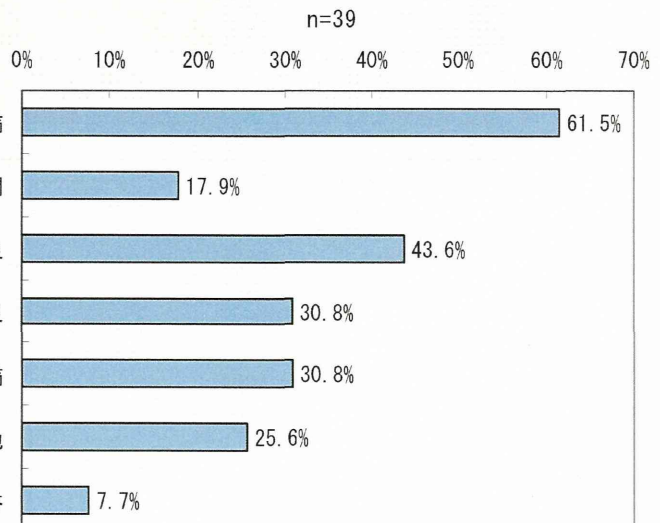
問114. 問113で③・④に○をつけた方にお伺いします。満足していない理由は何ですか。最もあてはまるものひとつに◎を、その他あてはまるもの全てに○をつけてください。(MA)

◎ 最もあてはまるものひとつ (SA)
n=39



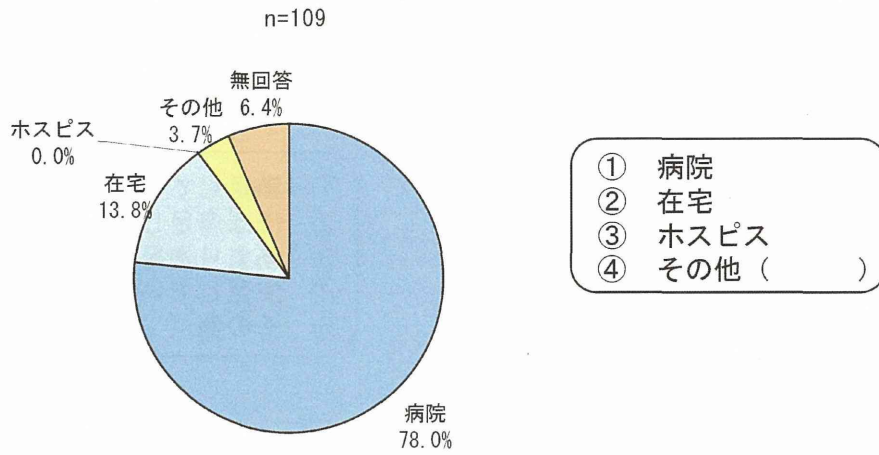
- ① 医療者の対応に不満
- ② 採血や検査の必要性に疑問
- ③ 患児への配慮不足
- ④ 家族への配慮不足
- ⑤ 臨終時の対応に不満
- ⑥ その他 ()

◎+○ あてはまるもの全て (MA)

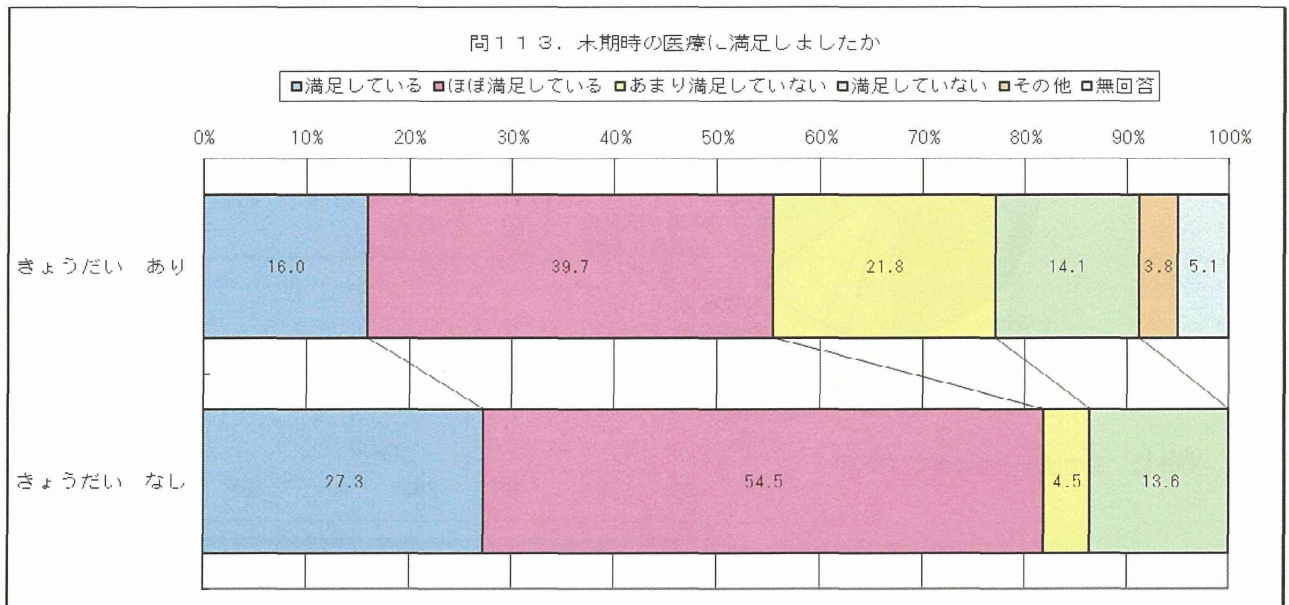


F 末期時から死亡後までの経過

問121. 末期時はどこで過ごしましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。(SA)



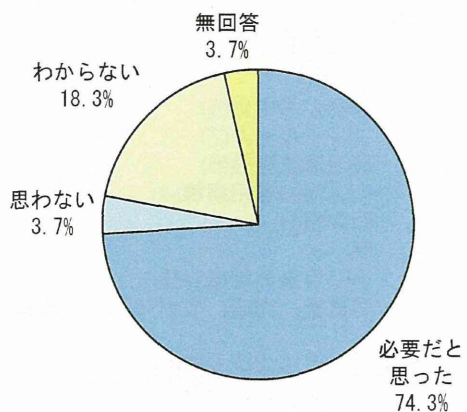
きょうだいの有無 と 問113.末期時の医療に対する満足度 (n=178, きょうだいあり156 きょうだいなし22)



F 末期時から死亡後までの経過

問127. お子さんが亡くなられたあと、悲しみを共に語り合う場所やその後に生じた問題について相談できる場所が必要だと思いましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。(SA)

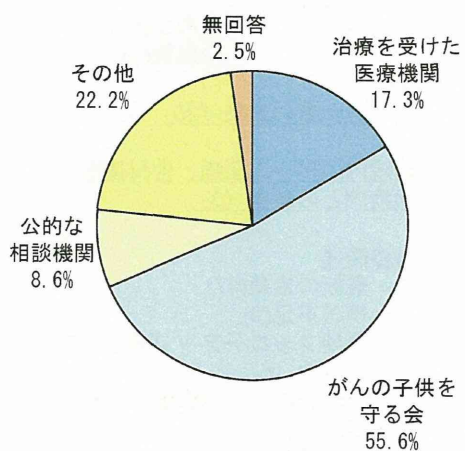
n=109



- ① 必要だと思った
- ② 思わない
- ③ わからない

問128. 問127で必要だと思ったとお答えになった方にお伺いします。以上のような遺族の相談に応じるところは次のどれが適当だと思いますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。(SA)

n=81



- ① 治療を受けた医療機関
- ② がんの子供を守る会 (支部も含めて)
- ③ 公的な相談機関
- ④ その他 ()

G 今後の小児がん医療体制について

問135. お子様が治療を受けられた病院で不足していた、あるいは不足しているものがあるとすれば何でしょうか (n=650, 回答数:497)

○多かった記述

医師・看護師の多忙、人数不足 (122)

- ・看護師の数 (34)
- ・医師の数(27)
- ・看護師の質(29)
- ・医師の質(8)
- ・専門医、専門看護師の不足 (18)
- ・医師、看護師の移動が多い(6)

患儿・家族(きょうだい含)への精神的なケア (79)

- ・付添家族への精神的ケア(48)
- ・患儿への精神的ケア(20)
- ・きょうだい児への精神的ケア(8)
- ・ターミナル期の精神的ケア(2)
- ・移植時の精神的ケア(1)

付添者の環境の改善 (64)

- ・付添者の休憩スペース (20)
- ・付添者の入浴(シャワー) (18)
- ・付添者への食事の提供 (14)
- ・付添者の宿泊スペース (10)
- ・付添者のトイレ (2)

医療従事者の医療への取り組み姿勢(54)

- ・患儿家族へのコミュニケーションの不足 (25)
- ・熱意、配慮、誠意が不足(20)
- ・病状説明、患儿への説明の不足(9)

教育・保育の機会 (28)

- ・院内学級 (20)
- ・保育体制(保育士、プレイルーム) (19)
- ・患儿の交流、レクリエーション(4)
- ・学習支援 (3)
- ・自習室 (2)
- ・中学生以上を対象とした学級 (2)
- ・復学支援 (1)

きょうだいへの支援 (27)

- ・患儿との面会の機会(16)
- ・きょうだい児への精神的ケア(8)
- ・きょうだい児が待つことのできる場所 (4)
- ・きょうだい児の保育 (6)

親への支援(21)

- ・親同士の交流の場・機会、親の会(11)
- ・精神面について相談できる専門家 (7)
- ・経済的な相談相手(2)
- ・グループカウンセリング(1)

設備・施設(58)

- ・感染対策(16)
- ・個室(11)
- ・建物の老朽化(8)
- ・プレイルーム(7)
- ・宿泊滞在施設(6)
- ・小児がん専用病棟(4)
- ・面会室(3)
- ・庭 (3)
- ・通院治療専用の部屋(2)
- ・図書室、売店、放射線設備、移植設備(1)

コメディカルスタッフ(37)

- ・ソーシャルワーカー(10)
- ・保育士(7)
- ・精神的ケアの専門家(7)
- ・ボランティアスタッフ (4)
- ・CLS(3)
- ・カウンセラー(2)
- ・心理士(1)
- ・ホスピタルクラウン(1)
- ・心療内科領域の医師(1)

患儿の食事の工夫 (20)

病院内のチーム医療、他科連携 (15) 他病院との連携 (3)

治療関連

- ・最新の治療(17)
- ・情報不足(9)
- ・長期フォローアップ外来 (7)
- ・症例数 (5)
- ・研究、診断や治療法の開発 (4)
- ・緩和ケア(3)
- ・移植時の対応(3)
- ・セカンドオピニオンをすすめる体制(2)
- ・AYA世代への配慮(1)

G 今後の小児がん医療体制について

問137. お子さんが小児がんと診断されたとき、治療を受ける病院を選択するにあたって、どのようなことを重要視されますか (n=650、回答数:522)

○多かった記述

治療 (346)

- ・治療成績、治癒率、症例数などの実績 (128)
- ・専門医など専門スタッフがいる(112)
- ・専門病院や大学病院、総合病院である(48)
- ・最先端医療、高度医療が受けられる(32)
- ・治療の選択肢が多いこと(6)

自宅からの距離 (124)

- ・自宅から近い (99)
 - ・通いやすい (22)
- cf.)自宅からの距離は施設選択に影響しない
(治療が絶対優先)(3)

医療者の取り組み姿勢(120)

- ・信頼できる医師(46)
- ・熱意、誠実、配慮のある医療者(38)
- ・コミュニケーションのとれる医療者(36)

療養環境(99)

- ・患児のQOLが重視されている(28)
- ・患児家族への精神的ケア(27)
- ・付添(面会)制限が柔軟(22)
- ・院内学級がある、学習環境(22)

病院の体制・設備・施設(53)

- ・設備の充実、感染対策、専門病棟(29)
- ・チーム医療、他科、他病院との連携(15)
- ・長期フォローアップ体制(4)
- ・緩和ケアの充実(3)
- ・宿泊滞在施設(2)

コメディカルスタッフ(14)

- ・ソーシャルワーカー(4)
- ・保育士(6)
- ・CLS(4)

選択肢はなかった(49)

- ・選択肢がなかった(53)
- ・選択する余裕がなかった(27)
- ・病院選択に関する相談窓口が必要(4)

問136. 理想とする小児がん治療施設はどうあるべきとお考えですか (n=650、回答数:494)

○多かった記述

- ・楽しいことたくさんある生活、成長・発達の機会 (73)
 - 遊びと学びの機会 (院内学級・保育舎) (43)
 - 遊べるスペース (プレイルームなど (15)、イベント (14)、患児同士の交流の場 (10) など
- ・患児・家族の精神的なサポート (66)
 - 不安除いてくれる (3)、ストレスを和らげてくれる (3) 話を聞いてくれる (5)、
 - 専門スタッフの配置 (7)、心に寄り添ってくれる (2)
- ・家のような施設(57)
 - 日常生活でしていたことができる(16)、家にいるような環境で治療ができる (31)、
 - 家族一緒に過ごせる場所がある (10)
- ・長期フォローアップ体制がある (25)
- ・きょうだいのサポート (21)
 - きょうだいが待てる場所、自由な面会、思いの理解、きょうだいの保育
- ・宿泊施設がある (20)
- ・相談できる専門家 (ソーシャルワーカーなど) (17)
- ・チーム医療 (コメディカルの充実含) (15)

<考察>

今回の調査は、2011年7月より10月にかけて行った財団法人がんの子供を守る会の実態調査（回答者650名(回収率60.7%））のうち、患児の疾患の発症が2000年以降と回答された425名（当会会員255名、非会員151名、所属無回答19名）について分析を行った。自由回答については、回答者全員の回答を集計した。当会会員の中には、社会的資源を積極的に活用しようとする意識の高い傾向や、また患児と死別した後にサポートを求めて会員になる方などもおり、その点で回答にバイアスが生じることは考慮すべき点と考える。

問135の自由記述に代表されるように、小児がんの治療を経験した患児家族は、患児が治療を受けた病院で不足していた、あるいは不足しているものとして、主に、「患児家族への精神的なケア」「付添環境の改善」「教育・保育の機会」「親やきょうだいへの支援」など、治療そのものに関することよりも患児・家族のより良い療養環境のために必要なものが多く挙げられている。

たとえば、「付添（面会）に関する規制について改善して欲しい点(問35)」との質問に対し、特になしとの回答は16.2%にとどまり、「給食・仮眠室・入浴室などの整備(54.8%)」「精神的ケアの充実(37.9%)・精神生活の充実(35.8%)」「病棟規則の緩和(28.7%)」「付添者の交代可能な看護体制(20.2%)」などさまざまな項目が寄せられた。また、「入院中の付添の間に身体の影響があったか（問39）」という質問に対しては、影響がなかったという回答の9.2%に対して、「体重の増減があった(52.0%)」「よく眠れなくなった(50.6%)」、「気分が沈みがちで憂鬱(46.4%)」「食欲不振(23.5%)」など、多くの方が実際に身体の不調を感じながら患児に付添い、闘病生活を送っている現状が明らかとなった。また、きょうだい児のいる家庭については、治療中に「家族の問題」があったとの回答がきょうだい児のいない家庭と比べて多く(問17)、実際に患児の入院中には、家族は患児ときょうだい児との交流をはかるために、面会の機会や外泊の機会をもつなどの配慮をしている（問53）。患児が死亡した家族に対して末期時の医療の満足度を問う質問(問113)についても、きょうだい児のいる家庭ではない家庭と比べて満足度が高くなかった。自由記述の項目においても、きょうだい児への精神的なケアなどの要望が多く挙げられており、きょうだい児に対する面会規制の緩和や居場所の確保、精神面でのサポートなどの改善が必要性が求められていた。

また、医療者に関する要望も多い中、今回もっとも多かった意見としては、医師や看護師の数が少なく多忙であることを指摘する声だった。あわせて、医師や看護師の質、熱意や配慮の不足、説明不足など、医療者の医療への取組姿勢についての不満の声も少なくなかったが、これらは、医師や看護師が多忙によるために、病状などの十分な説明や話合いの機会などの時間を確保することができずに生じていることも推測される。医師や看護師の適正人員の配置は、患児家族との円滑なコミュニケーションへとつながり、これは治療方針への理解や、医療者との信頼関係の形成につながり、患児家族の精神的な安定にも大きく影響するものである。家族の療養生活をサポートするコメディカルスタッフも含めて、医療従事者の手厚い配置が求められている。

今回の調査においては、経済的な負担感を訴える回答はさほど多くはなかった。これは、所得によっては一部自己負担が生じるようになったものの、小児がんの治療費が公費負担の対象になっていることが大きいと思われる。しかしながら、付添の交通費、生活費などの費用に負担を感じている実態（問42）や、また晚期合併症の治療のために月額5万円以上負担が生じている例（問100）も見られた。治療が長期になる場合には家族の負担は決して小さくなく、治療に臨む家族は預貯金にも限りのある比較的若い子育て世代の家庭であることが多く、安心して治療に専念できる環境のためにもより手厚い経済的な支援が望まれる。

一方で、小児がんの治療を受ける病院を選択するにあたり、多くの患児家族は何よりも最善の治療を受けられる施設であることを重視しており、治療実績や症例数、専門スタッフの配置、専門施設かどうかなどを判断の材料としているようである。適切な治療を受けることのできる施設であることが前提であり、そのうえで、自宅からの距離やさまざまな療養環境を重視している結果が明らかとなった。これは、転院の理由について(問10)、「専門医のいる病院へ・移植医療を受けるため（計66.3%）」に対し「通院距離の負担の面で(0.5%)」との回答からも推察される。しかしながら、現実には、特に地方を中心とし、病院を選択できる余地がないことや、病気を告げられた親に「選択」という発想を持つ余裕のないのが現状でもあり、病院選択の相談の窓口を求める声も寄せられている。

<結語>

小児がん患児家族は、小児がんの治療を受ける施設に対し、理想の施設としては、適切な治療が受けられることに加え、患児のQOLおよび成長の機会を損なわれることがなく、患児家族の精神的なサポートの充実した、家のような環境で治療ができる施設を考えているようである。その闘病経験を通して、患児家族と一緒に病気と闘いながら、患児とそのきょうだいがひとりの子どもとして成長していける環境であること、また、多くの専門スタッフに支えられながら家族もケアされる環境であってほしいと望んでいる。

今回、多くの方にご協力いただいた小児がん患児家族の実態調査を通し、療養環境の課題や医療体制に求めている声をたくさん頂戴し、改めて小児がん患児家族のおかれる現状についての課題が浮き彫りになってきた。現在、小児がん専門施設の検討がなされているが、本調査の結果を引き続き精査し、患者家族の声として、患児家族の療養環境の整備等についても是非配慮いただけるよう努めたい。

小児がん患者本人を対象とした小児がん診療施設に対する要望調査報告

公益財団法人がんの子どもを守る会

2013年10月

【背景・経過】

我が国のがん対策は小児がんが置き去りにされたまま推進されてきたが、2012年より「がん対策推進基本計画」に小児がん対策が「重点的に取り組むべき課題」の一項目として位置づけられ、全国に小児がん拠点病院も指定されたが、これらの動きが進む中、当会では、小児がん患児家族の実態を明らかにして、今後の小児がん医療整備に反映していくべく、2011年7月～10月、第4回目となる会員実態調査を行った。この調査結果から、患児家族への精神的ケアの不足、教育や保育の機会の重要性、きょうだいへの支援やコ・メディカルスタッフの必要性などが明らかになった。

理想の小児がん診療施設を検討するうえで、患者である小児がん患児本人の声は貴重である。我々は、前述の実態調査の結果から患児本人の回答を抽出し検討を試みたが、患児本人の要望として特徴的な結果を得るには至らなかった。小児がん診療の拠点となる病院がよりよい場となるようなニーズ把握を適切に行うためには、新たに患児本人の視点からの意見を聞くことが重要である。

【目的】

小児がんの治療のために入院生活を経験した患児本人を対象に、患児自身が療養の場をどのように感じどうあってほしいと思っているかを把握し、小児がん医療を提供する施設に求められるものを明らかにすることを目的に、小児がん診療施設に対する要望調査を行った。

【調査概要】

<対象>

本調査への協力に同意した10才以上の入院生活を経験した小児がん患児本人

20才未満の患児本人については、本人及び保護者からの同意が得られた者を対象とした。

<方法>

2013年2月発行の当会機関紙送付時に、同封文書にて本調査への協力を募った。

2013年4月下旬、本調査への協力に同意した130名に対し、調査用紙および返信用封筒を郵送した。

調査用紙は、全6ページ、18の質問項目（選択および自由記述）から構成され、無記名にて回答する形式とした。

【本調査における倫理的配慮】

本調査は、当会調査研究委員会の承認を得たのちに実施した。

調査は無記名で実施し、調査への協力は自由意志に基づいた。また、20歳未満の対象者については、その保護者にも研究協力への意思を書面にて確認し、調査用紙を送付した。

【結果】

2013年5月末日までに89通の返信があった。

ただし、そのうち10歳未満の回答による2通、入院経験のない者による回答2通の計4通は、本調査の対象外としたために除外し、計85通を有効回答として分析した。（N=85、回収率65.4%）

回答者85名のうち、16名（18%）が、視覚障害や、読み書きの補助、小さい頃の覚えてない箇所を尋ねた等の理由により保護者（全て母親）の手伝いを要した。

回答は、質問項目ごとに単純集計した。自由記述(問ヶサ)については、KJ法を用いて内容分析を行った。

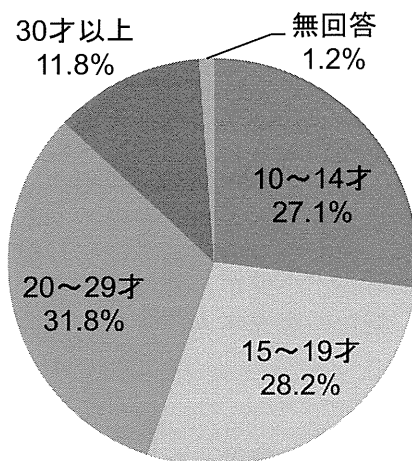
結果を以下に示す。（N=85）

【結果】

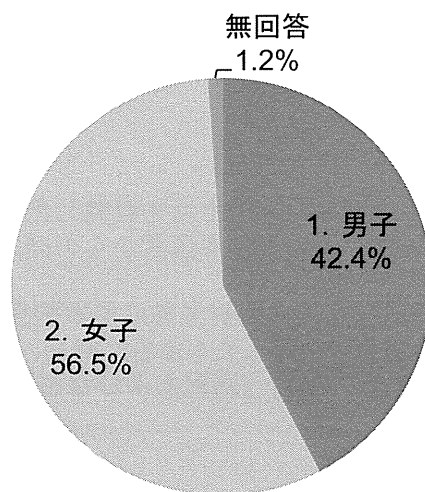
○あなたについて教えてください。

2. あなたは現在、何才ですか。また、性別と現在何をしているか教えてください。

年齢

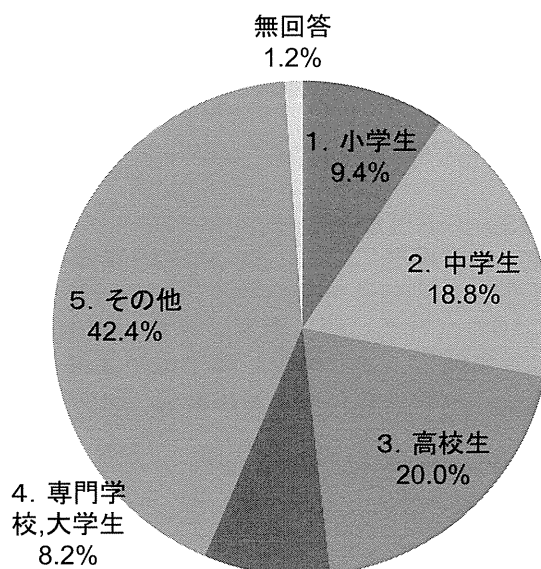


性別



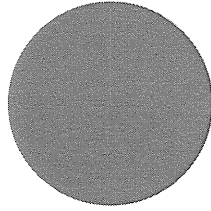
所属

- ① 小学生
- ② 中学生
- ③ 高校生
- ④ 専門学校・大学生
- ⑤ その他__



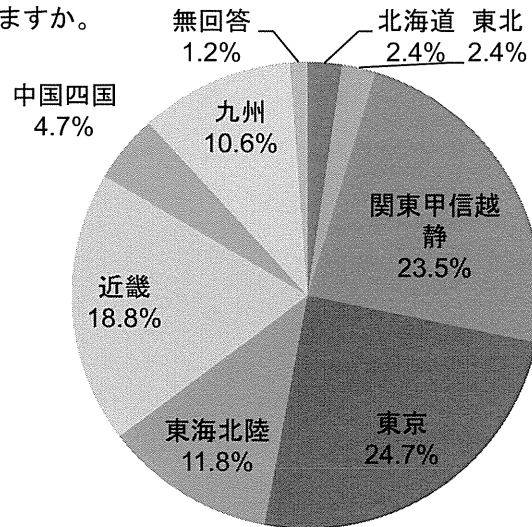
3. あなたは病院に入院したことがありますか。

- ① ある
- ② ない

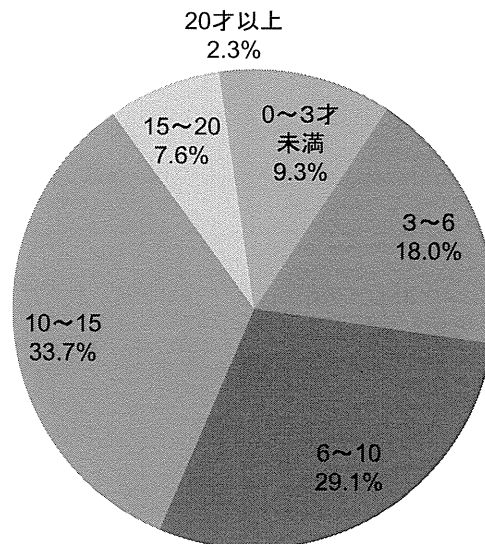


- 1.入院している
- 2.入院していない

4. あなたが入院していた病院はどこにありますか。

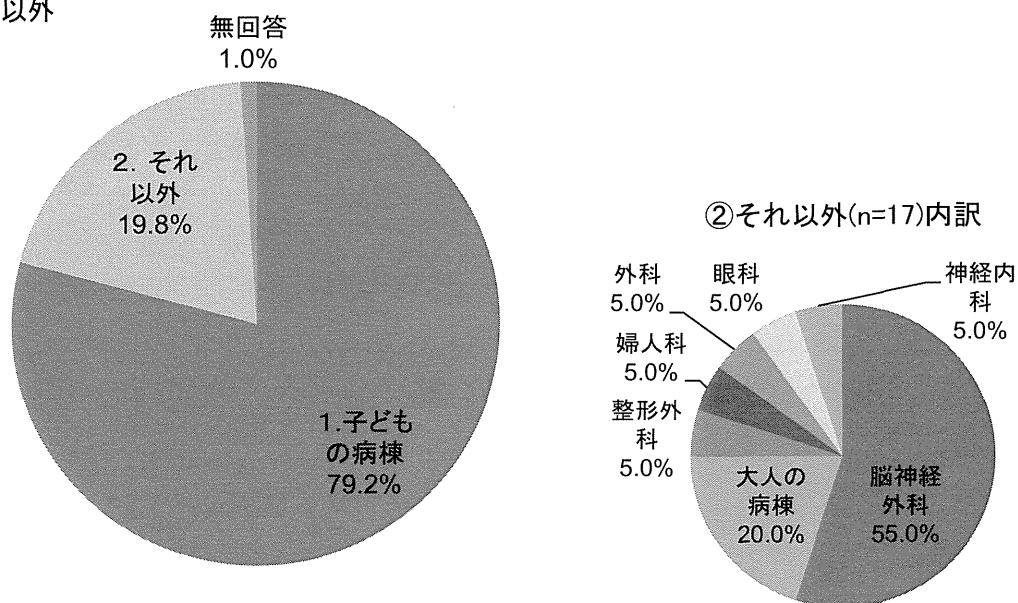


5. あなたが入院していたのは何才のときですか、覚えている範囲で教えてください。



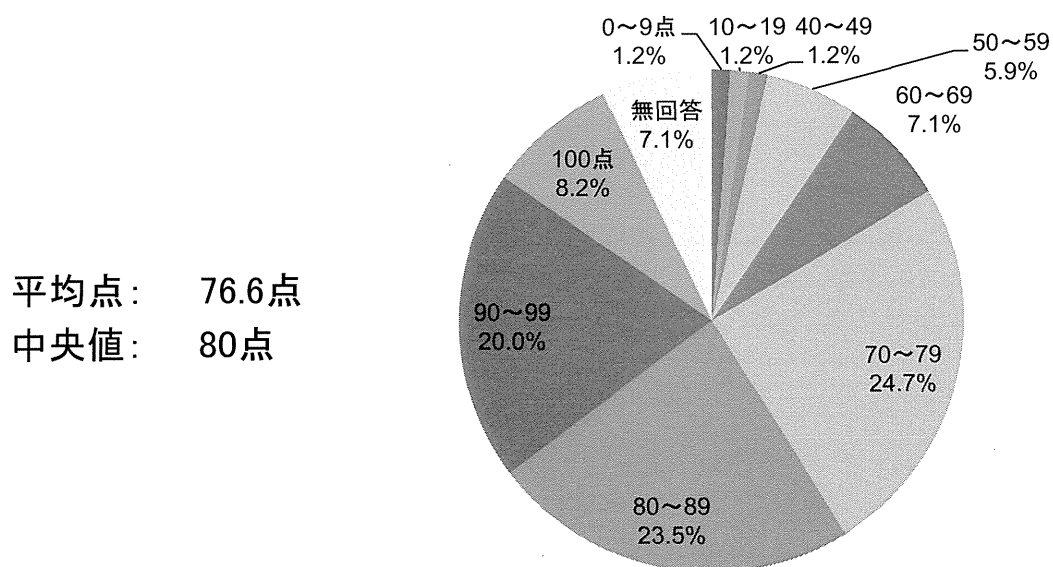
6. あなたが入院していた病棟について教えてください。

- ① 子どもの病棟（小児病棟・こども病院など）
- ② それ以外



7. あなたが入院していた病院について教えてください。

- ① あなたが入院していた病院に点数をつけると、100点満点のうち何点ですか。



②入院中に嬉しかったことや楽しかったことがあったら教えてください。

(主な記述)

<生活>

- ・友だちができたこと (12)
- ・友だちと遊んだこと (8)
- ・<イベント、教育>
- ・イベント(クリスマス会、夏祭り、七夕、コンサートなど)があった (12)
- ・院内学級があった (10)
- ・院内学級の先生が優しかった (2)

<医療者など>

- ・医師、看護師が優しかった (10)
- ・医師、看護師と仲良くなれた (2)
- ・医師、看護師など医療者、ボランティアさんと遊んだ
- ・研修医や看護実習の人がたくさんきてくれた

<家族、友人>

- ・家族の面会 (2)
- ・友人からの手紙、お見舞い (2)

③入院中に嫌だったことや困ったことがあったら教えてください。

(主な記述)

<治療>

- ・痛い治療や検査(注射、点滴、マルクなど) (11)
- ・治療による副作用(薬、抗がん剤、吐き気、脱毛など) (10)
- ・点滴、注射、IVHの失敗 (2)

<生活>

- ・食事がまずかった (12)
- ・小児病棟から外に出られなかった (4)
- ・小さい子がストレス(年下の子がうるさい、体調不良時も年少児に気をつかわなければならない) (3)
- ・体調が悪いのに起床や食事を強制された (3)
- ・プライバシーがなかった (2)

<医療者>

- ・看護師のきつい対応(言葉、態度) (3)
- ・小さい子と比べられた(がまんさせられた) (2)

<家族、友人>

- ・きょうだい、友達に会えなかった (5)
- ・お見舞いに来てほしくないときにきた (2)
- ・親に会える時間が限られていた

<イベント、学校>

- ・楽しいことがなかった (3)

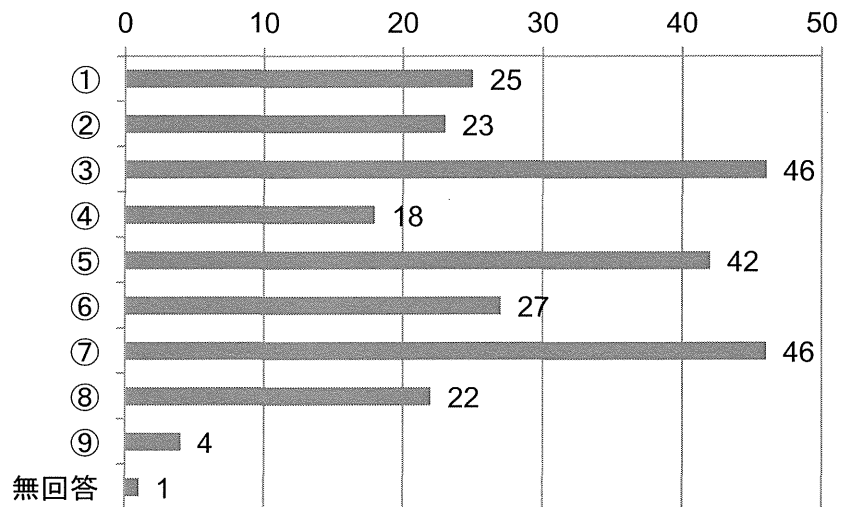
<理想の病院についてのアンケート>

◆ア～クまでの8つの質問の中であなたが大事に思うことを3つまで選んで番号を書いてください。
さらに、選んだ中から一番大事だと思う番号を書いてください。(N=85)

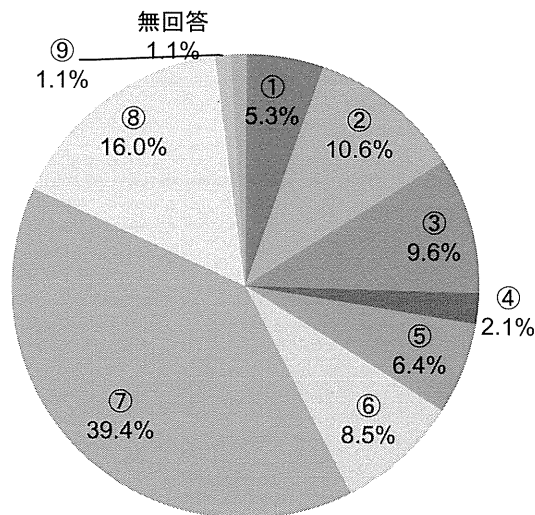
ア、病室について

- ①大部屋がいい
- ②個室がいい
- ③窓側のベッドがいい
- ④廊下から見えない場所にベッドがあるといい
- ⑤部屋にトイレがあるといい
- ⑥壁の色は明るいのがいい
- ⑦同じくらいの年齢の子と一緒に部屋がいい
- ⑧プライバシーを気にしてほしい
- ⑨その他

病室について(MA)



病室について(SA)

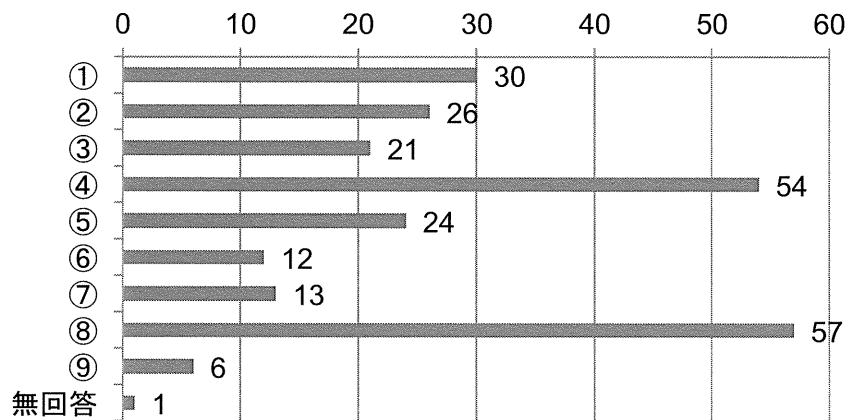


◆ア～クまでの8つの質問の中であなたが大事に思うことを3つまで選んで番号を書いてください。
さらに、選んだ中から一番大事だと思う番号を書いてください。(N=85)

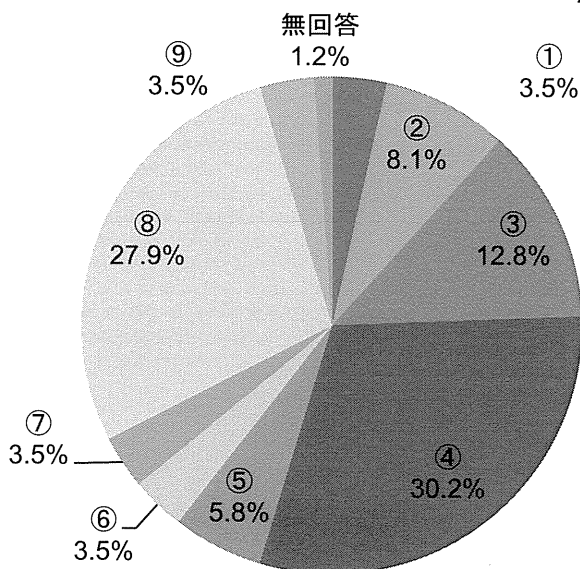
イ、病院での生活について

- ①ねなさい、食べなさいなどうるさく言われない
- ②ねているときに起こされない
- ③夜眠るまでだれかにいてほしい
- ④好きなものが食べられる
- ⑤好きなときにお風呂にはいれる
- ⑥家族と一緒に風呂にはいれる
- ⑦好きな洋服を着てすごしたい
- ⑧自分のペースで生活したい
- ⑨その他

病室での生活について(MA)



病院での生活について(SA)

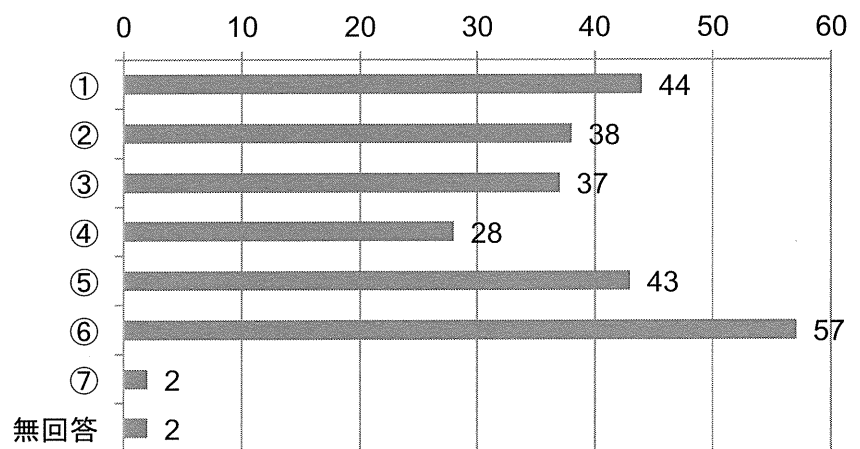


◆ア～クまでの8つの質問の中であなたが大事に思うことを3つまで選んで番号を書いてください。さらに、選んだ中から一番大事だと思う番号を書いてください。(N=85)

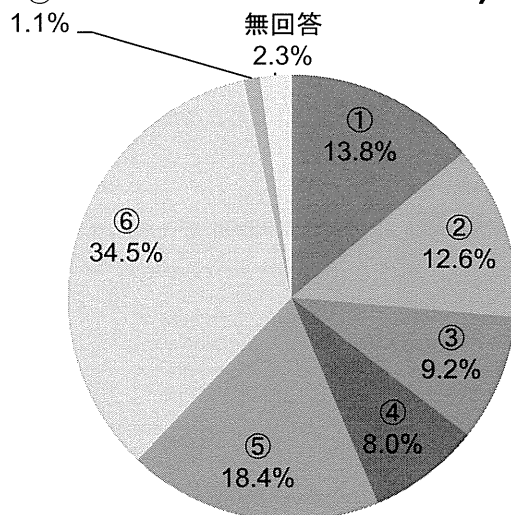
ウ、病院での遊びや自由時間について

- ①保育士やボランティアなど一緒に遊んでくれる人がいる
- ②本やマンガ、おもちゃがたくさんある
- ③年齢にあったプレイルームがある
- ④ゲームを自由に使ってよい
- ⑤メールやインターネットが自由にできる
- ⑥楽しい行事やイベントがたくさんある
- ⑦その他

病院での遊びや自由時間(MA)



遊びや自由時間(SA)

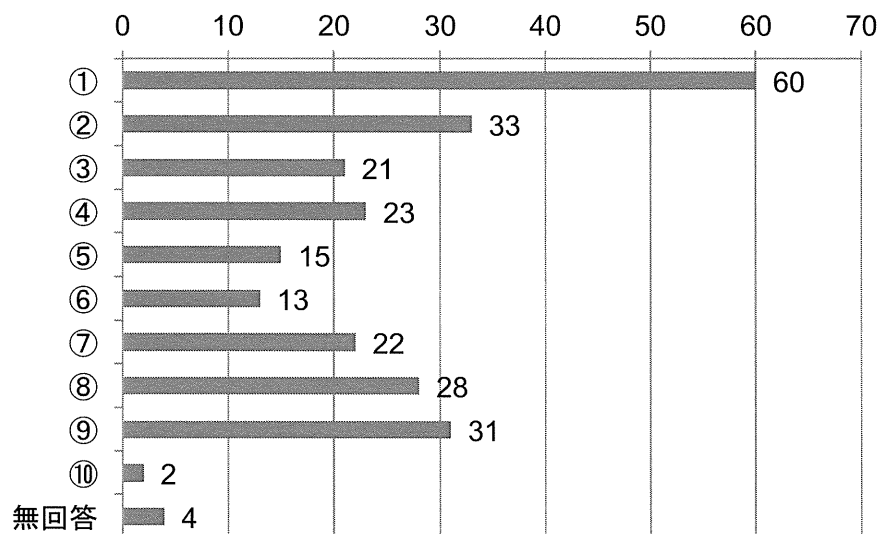


◆ア～クまでの8つの質問の中であなたが大事に思うことを3つまで選んで番号を書いてください。
さらに、選んだ中から一番大事だと思う番号を書いてください。(N=85)

工、勉強・学校について

- ①病院の中に学校がある
- ②ベッドサイドに先生がきてくれる
- ③勉強を見てくれるボランティアがいる
- ④自習室がある
- ⑤体育をしたい
- ⑥理科の実験をしたい
- ⑦治療中でもみんなと勉強できるように工夫してほしい
- ⑧もとの学校の様子を知りたい
- ⑨高校生が院内学級で受けた授業は単位として認めてほしい
- ⑩その他

勉強・学校について(MA)



勉強・学校について(SA)

